

令和4年 第13回

仙北市教育委員会定例会会議録

令和4年8月18日

仙北市教育委員会

令和4年 第13回 仙北市教育委員会定例会会議録

1 開会宣言 令和4年8月18日（木） 午後2時

2 場 所 西木総合開発センター 2階 集会室

3 出席委員

教育長	須田 喬
教育長職務代理者	坂本 佐穂
委員	橋本 勲
委員	田口 桂一郎

4 出席した事務局職員

教育部長	藤村 幸子
教育次長兼学校教育課長	鈴木 徹
教育次長兼角館公民館長	佐々木 信介
教育総務課長	湯澤 満
学校適正配置準備室長	若松 正輝
学校適正配置準備室参事	毛利 俊介
北浦教育文化研究所長	門脇 貴一郎
総合給食センター所長	草薨 直子
生涯学習課長	武藤 寛幸
中央公民館長補佐	小林 正人
田沢湖公民館長	大石 基
市民会館長	信田 昌史
田沢湖図書館長	真崎 智明
学習資料館・イベント交流館長	松橋 幸太郎
平福記念美術館参事	高橋 百合子

5 議事

(1) 議案審議

議案第24号 令和4年度仙北市一般会計補正予算の教育費について

(2) 報告事項

報告第21号 仙北市教育行政報告について

報告第22号 就学指定校変更の承認について

6 審議の経過及び結果

(須田教育長)

ただいまから、令和4年第13回仙北市教育委員会8月定例会を開催いたします。

それでは、本定例会の出席委員、欠席委員の報告、職員を紹介します。

－出席委員、職員を紹介－

会議書記には齋藤課長補佐と上野課長補佐を任命します。署名員については、私と委員からは田口委員を指名します。前回会議録の承認についてですが、坂本教育長職務代理者におかれましては、会議が終わりしだい署名をいただきたいと思います。

教育長挨拶ですが、私の方からは、本日3点報告させていただきます。

1点目が、新型コロナウイルス感染症についてです。夏休みに入り子どもたちの感染者が大分減少しておりますが、それでも家庭内感染で多くの子どもたちが陽性となっております。8月1日からの市内の児童生徒、教員等の感染状況を報告しますと、角館小学校7名、白岩小学校1名、西明寺小学校2名、生保内小学校4名、角館中学校3名、生保内中学校1名、西明寺中学校1名の合計19名の報告がありました。さらに今日も増えております。

2点目は学校適正配置準備室からです。「学校適正配置検討委員会」の設置についてですが、8月の29日、第1回目の会議を開催する予定です。委員長には、前の県教育委員会で高校教育課長を務め、その後、教育次長を務めた、鎌田信秋田大学教授にお願いしたいと考えております。鎌田教授は高校教育課長の時に学校再建の難題を解決してきた方で、地域の事情を十分考慮して作業を進めた経験をお持ちです。その難しさを十分理解している方ですので、適任と思われます。副委員長には、現角館高校校長の佐藤彰久先生にお願いしたいと考えております。その他の委員については、若松室長からこの後報告してもらう予定です。会議では委員長選出の他、現状の課題を共有し今後の進め方について協議を行う予定です。

3点目は、「仙北市二十歳の集い」についてです。これまで成人式として開催していた事業は、今年度は名称を「二十歳の集い」として、8月14日（日）に市民会館で開催しました。今年の4月1日に成人年齢が18歳に引き下げられましたが、これまでの成人式同様に対象を二十歳として開催したものです。開催時、直近のコロナの感染者数については決して少ないと言える状況ではありませんでしたが、主催者や参加者が感染対策を徹底して行うことができました。当日は参加対象者230名の内、71.3%にあたる164名が参加し、同級生や恩師との再会を喜んでいました。坂本委員、田口委員にはお忙しいところご参加いただきありがとうございます。

次に、教育長の報告についてです。

－資料により報告－

ただ今の報告についてご質問等ございませんか。

(橋本委員)

学校魅力化フォーラムとは何ですか。

(須田教育長)

次長お願いします。

(鈴木教育次長兼学校教育課長)

全国のいろんな各市町村の例えば、適正配置ですとか、町ではこういう学校を作りたいですとか、そういうものを文科省で行うものです。リモートで参加します。

(須田教育長)

適正配置に関するフォーラムということによろしいでしょうか。

(鈴木教育次長兼学校教育課長)

はい。

(須田教育長)

その他ありますか。なければ、審議案件等に入ります。議案第24号令和4年度仙北市

一般会計補正予算の教育費についてお願いいたします。

(鈴木教育次長兼学校教育課長)

資料の2ページをご覧ください。学校教育課の補正予算について説明いたします。最初の方の10款2項1目一般管理費の小学校、補正見積額235,000円、それから下の10款3項1目一般管理費、中学校1,160,000円ですけれども、これは市バスで対応できない学校行事の貸切バス代を補正するものです。続きまして、小学校の方の10款2項1目、学校保健特別対策事業費、需用費と備品購入費合わせまして、5,846,000円。下の10款3項1目、学校保健特別対策事業費、中学校ですが、こちらも需用費と備品購入費合わせまして、4,950,000円ですが、感染症対策として消毒液や備品を購入するものです。財源は、学校保健特別対策事業費補助金、上の方に歳入がありますが、それと新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金でまかなう予定です。続きまして、小学校の方の10款2項1目、手洗自動水栓化事業費10,208,000円。下の中学校、手洗自動水栓化事業費7,106,000円ですが、手動式の蛇口を非接触型の自動水栓にする事業です。財源は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金です。最後は中学校の10款3項1目、一般管理費、角館中学校ですが、備品購入費694,000円ですが、カーテン購入の確定による減額というものです。学校教育課は以上です。

(須田教育長)

何か質問ありませんか。

－質問なし－

生涯学習課お願いします。

(武藤生涯学習課長)

3ページ生涯学習課です。9月の補正予算が2件あります。一つは公用車のガソリン代です。燃料の高騰ですとか、計画以上使っているということで、燃料費の不足が見込まれるので、補正予算をお願いするものです。もう一つが、歳出のところにあります、10款5項1目、社会教育施設手洗自動水栓化事業費が2,079,000円です。これは先ほど学校教育課の方で説明がありました、手洗自動水栓化事業と同じコロナの臨時交付金により実施しようとするものです。社会教育施設の中で既に自動水栓化されている施設もありますけれども、それ以外のところで手洗いの自動水栓化を実施するもので、今回は施設の数として5施設で30口を自動水栓化するものです。以上です。

(須田教育長)

何かご質問ありませんか。

－質問なし－

次に中央公民館お願いします。

(佐々木次長兼角館公民館長)

中央公民館管理運営費、10款5項2目になりますが、角館公民館が管理している東地区公民館に関することですので、私が説明させていただきます。委託料で792,000円、2件ありまして、東地区公民館の体育館の雪下ろし業務、こちらの委託が640,000円、落雪注意の注意喚起の看板設置業務、こちらが152,000円、合わせて792,000円の補正見積となっております。また原材料費で150,000円、同じく体育館の冬囲い用の材料として杉角材等で、150,000円となっております。以上です。

(須田教育長)

これは、東地区公民館の体育館にシートをかけたところ、雪止め等をシートを張り付

けるにあたって取ったということで、雪が流れるということに対しての、「道路に落ちてくる。危険だ。」ということでの補正ですね。何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。5ページ市民会館をお願いします。

(信田市民会館長)

それでは、ご説明させていただきます。仙北市民会館の歳出となります。10款5項9目、自主事業運営費の委託料となります。こちらの方660,000円をあげております。先ほど皆さんの方にチラシの方お渡しておりますけれども、10月23日イベント開催予定となっております。こちらの方なんですけれども、7月に行ったイベントの継続イベントということで、かなり内容を充実させまして、地域の拠点づくりの場として、市民会館、図書館の方に人の流れを作りたいということで、また10月23日にイベント開催したいと思っております。660,000円の内訳ですけれども、こちらの方7月に行ったイベントの際にeスポーツの体験イベントを行っております、こちらの方の業務委託料となっております。以上です。

(須田教育長)

何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。

—質問なし—

では報告事項に入ります。報告第21号仙北市教育行政報告について、部長お願いいたします。

(藤村教育部長)

それでは7ページからになります。令和4年第6回仙北市議会定例会の開会にあたり、教育行政報告について概要を説明します。

最初に学校教育課からは、新型コロナウイルス感染症について、記載された学校での8月に感染した児童生徒の人数、及び夏休み後の学校の前期後半のスタート時についてご報告しています。人数につきましては先ほど教育長もお話されましたが、後日、最新情報とさせていただきます。次の「WRO Japan 2022秋田県大会」では、西明寺小の6年生の門脇さん、高橋さんチームが1位となり、8月28日に開催される静岡県浜松市での全国大会に出場するという報告です。このWROというのはワールド・ロボット・オリンピックの略で、世界の子どもたちがロボットを製作し、そのプログラム作成により自動制御する技術を競うコンテストだそうです。次に東北中学校体育大会の結果についてです。剣道大会、柔道大会とも山形県山形市、南陽市それぞれの市で開催され、剣道では小野翔さん、柔道では田口悠歩さんがそれぞれ5位に入賞された結果の報告です。剣道大会で入賞した小野さんは、明日19日北海道釧路市での全国大会にも出場されます。

次に学校適正配置準備室からは、「学校適正配置検討委員会」の設置についてです。小中学校の規模や配置について、多角的な視点から検討を行うため、保護者・教育関係者など18名で構成される検討委員会を設置し、第1回会議を8月29日に開催する予定となっております。今後の進め方などについても協議を行う予定です。

9ページをご覧ください。生涯学習課からは、8月14日に開催した「二十歳の集い」についてです。内容は先ほど教育長がお話したとおりです。

最後に中央公民館からは、8月20日に開催の予定だった「生保内節盆踊り大会」について、実行委員会において中止の決定をした旨の報告をしております。本日の説明は未来時のものもありますけれども、議会での報告時は過去形で報告する項目もありますので、ご承知おき願います。また今後8月25日に開催予定の「大曲仙北中学校田沢湖一周駅伝」については、後日追記し、議会への報告とさせていただきますので、よろしく願いいたします。教育行政報告の概要は以上となります。

(須田教育長)

次に、報告第22号 就学指定校変更の承認についてお願いします。

(鈴木教育次長兼学校教育課長)

では、就学指定校変更について、ご報告いたします。

－資料により説明－

以上、就学先指定変更の報告でした。

(須田教育長)

その他に入ります。はじめにいじめ不登校対策についてお願いします。

(門脇北浦教育文化研究所長)

7月のいじめ不登校の状況について報告をいたします。最初に、いじめについてです。月別でいきますと4月12件、5月16件、6月24件ときまして、7月は16件でした。

次に、7月の不登校児童生徒についてです。小学生3名、中学生11名、計14名となっております。以上、7月のいじめ不登校の状況であります。

(須田教育長)

いじめ不登校について報告ありましたけれども、何かご質問ご意見ありますか。よろしいでしょうか。

－質問なし－

次に、教育委員会定例会会議録のホームページ公開についてお願いします。

(湯澤教育総務課長)

令和4年6月23日の定例会会議録をご覧ください。

－資料により説明－

誤字や脱字、お気付きの箇所等ございましたらご連絡くださるようお願いいたします。

(須田教育長)

よろしいでしょうか。

次に、学校適正配置準備室からの報告ということで、若松室長お願いします。

(若松学校適正配置準備室長)

学校適正配置準備室からは、3点報告いたします。

一つ目ですけれども、本日配付させていただいたアンケートの集計表となりますが、去る8月14日に開催した二十歳の集いにおいて、将来の小中学校の在り方に関するアンケートを実施しました。調査票については、前回の委員会でご検討いただいた内容です。当日は会場入り口前で、入場前に実施しまして、集いの参加者164人の内、163人から回答をいただきました。詳しい結果については、後ほど毛利の方から説明いたします。また今後同じ調査票を用いて、角館高校2年生を対象として実施を予定しています。学校側のご協力をいただきまして、夏休み明けから9月上旬までの期間で実施します。

二つ目ですが、学校適正配置検討委員会の設置及び初会議の開催予定についてです。A4裏表1枚の資料をご覧ください。8月29日、ここ西木総合開発センター集会室で開催を予定しています。今回は初会議ですので、予定案件は、委員長・副委員長の選出、説明事項として現状と課題、これまでの取り組み、先に行った意見交換会の結果報告、今後の進め方について説明を行います。また10月に予定しているアンケートの実施要領についてご意見をいただきたいと考えています。構成委員については、裏面をご覧ください。先ほど教育長あいさつの中で、学識経験者のところについては、ご説明を致しましたので、私からは選任区分(2)以降についてご説明します。検討委員会の設置要綱第3条のこの選任区分に基づいて、それぞれ選考基準を設定しまして、名簿のとおり委嘱する予定です。

(2)の部分ですが、こちらは保護者となります。6小学校のPTA会長さんからご推薦

をいただいた6名の方々です。その内、白岩小学校のPTA会長からは、白岩小百合保育園の保護者会の方の推薦がありました。それ以外はPTAの役員の方々かなという推薦でございます。それから3地区の就学前施設の保護者会長推薦枠と、それから次の選任区分の地域住民、地域学校協働活動推進員さん。この6名については、地域バランスを考慮した形で、保育施設の方については角館西保育園、だしのご園、ひのきないこども園の中から、そして、地域学校協働活動推進員さんは、角館、神代、西明寺というバランスを保って選任を行う予定です。(4)の学校関係者については、校長会からの推薦で、桧木内小学校の校長先生と神代中学校の校長先生となります。(5)その他教育委員会が必要と認める者として、企業等連絡協議会長の推薦で、寺沢工務店の代表取締役、この方は会長が自ら就任ということになりました。それから、民生児童委員協議会からの推薦は、角館中川地区主担当の主任児童委員さんに委嘱となります。このとおり8月29日の会議で正式に委嘱するということとなります。

それから三つ目ですけれども、教育委員の皆様からご意見をいただきたいもので、10月に予定している市民アンケートの実施要領の案についてでございます。8月29日の検討委員会でもご意見をいただいて、次回9月の教育委員会で最終決定したいと考えています。委員の皆様には大きいところは出来ればこの場で、細かいところも含めて来週中にはご意見をいただければ幸いです。それでは、アンケートに関しまして、二十歳の集いのアンケートの結果報告と10月予定の市民アンケートの実施要領案について、毛利の方から説明をいたします。

(毛利学校適正配置準備室参事)

私の方から二十歳の集いの時に行ったアンケートの結果について報告いたします。棒グラフがたくさん並んでいる資料です。全部で6種類の棒グラフがあるので、その種類について説明いたします。最初は全体。回答者163人の回答をグラフ化したものです。次の小単級。小学級でクラスの人数が19人未満だった方々の回答。次の大単級。クラスは一つ、そして人数は20人以上だった方々の回答。裏にいきますと、記載のとおり、学年2クラス、3クラス、そして4クラス以上。これの棒グラフをまとめています。

では、1枚目に戻りまして、全体の棒グラフについて説明いたします。見てわかるとおり、灰色の多様性、水色の切磋琢磨、というところが5割近く選ばれております。灰色の多様性については、どの学級編成でも5割近くで選ばれておりました。水色の切磋琢磨、こちらもほぼすべての種類で選ばれております。真ん中の個別指導ですけれども、それほど高く選ばれているわけではないのですが、3学級編成、学校で言いますと角館小だった子たちなんですけれども、こちらは比較すると多く選ばれております。そして活躍の場、こちらもかなりバラつきがあるのですが、2学級編成だった、小学校としては生保内小、神代小だった子どもたちが多く選択しています。そして地域連携、こちらはどの学級編成でも、それほど高くはないのですが、比較すると小規模の単級の人たちが多く選んでいるという状況です。何か学級の規模によって傾向が出るのかなと思っていましたけれども、比較してみるとそれほど分析できるような差がでたわけではなく、やはり、人それぞれ個人の考えが反映されているなど。ただやはり多様性という部分では、どの学級編成で過ごしてきた人たちでも重要であるということが全体のグラフから見て分かるということです。

また今回は、二十歳の集いの前に、入口でアンケートを書いていただきました。二十歳の集いに参加した子は、やはり、友達にこれから久々に会うということで、すごくウキウキした気持ちであまりアンケートにじっくり向き合うというよりは、パパパッと書いて中に入る。中には裏面を記載せず、回収ボックスに入れた方々もいました。ただ中には3分

4分とじっくり取り組んで自由記述をすべて記入してくれた方もいました。総じて気持ちよくアンケートを行い、引き受けてくれました。

最後の円グラフです。今現在、何処に住んでいるかというところで、ご覧のとおり。では自由記述の方も説明いたします。問4、問6に自由記述がありました。問4は緑色の人が増え戸惑ったこと。こちらはすべて単級の人のみが、書いています。どういったことに戸惑ったかは、記載のとおりです。ピンクのところです。少子化が進む地域の教育についての意見やアイデア何かありますかと聞いたところ、はっきりと書いていたところは、設備面の義務教育学校を仙北市に1校。そして、学校設備をもっと地域の人が気軽に使えたらいい。学習活動等というところでは、部活に関するものがたくさんありましたが、部活は仙北市で1チームになればいい。学校同士で連携した行事。こちらの部活に関しては、やはり単級で過ごしてきた人たちの記載が目立ちました。そして下の黄色い枠、自分のいた小中学校の良かった部分。学習活動では、授業のことと部活のこと、行事のこと。ここは複数学級で過ごしていた人の記載が多かったです。そして地域。こちらは学級編成、単級、複数学級、半数半数の結果でした。その右にいきまして人間関係。みんな仲が良かった。こちらでも単級の子も、複数学級の子も、両方記載がありました。そして規模。当然人数が少なく良かったのが単級の子、人がいっぱいでは複数学級の子。少ない人数でできる貴重な体験ができたため、進学してもとても有利になった。と書いているのは単級の大きい方、大単級の子でした。二十歳の集いのアンケート結果としては以上になります。

では、次の資料の保護者や地域住民に取るアンケートの実施要領について説明いたします。調査の目的については、大きく二つ、一つは将来にどのような学校・教育を望んでいるのかということ把握することです。二つ目にはその把握したことを踏まえて、検討委員会などにはかり、学校運営方針に反映させるためです。3番、調査対象者ですが、少し数字の変更があります。①保育園こども園の保護者は約470人です。こちら50人増えた理由は、園に預けていないけれども在宅で育児をしている方々が、52名現在いるということでプラス50となります。あとは②小学生の保護者、③中学生の保護者、④小学生5年生、⑤中学生全学年、⑥仙北市内在住の市民抽出方式で1,000人ということで、またここで少し付け加えますと、大曲支援学校せんぼく校に通っている仙北市内在住の小学部、中学部の子たち合わせて23人、ただし仙北市外の子もいるということですので少し減ると思いますけれども、こちらにもアンケートをお願いする予定です。副校長先生からは了承していただきました。4番の調査内容は、記載のとおりです。調査方法についても記載のとおり、在宅で育児をしている方についてはこちらで郵送します。調査実施スケジュールについても記載のとおりです。

それでは中の内容に入っていきます。まず1枚目。こちらは表紙なんですけれども、アンケートの本体とは別でA4、1枚作成する予定です。表に書いているのは、現状と課題。なぜこのアンケートをするのか、そしてこのアンケートをどう活用していくのかについて記載しています。表紙の裏面には、保育園の方々には何度も見ていただいた表ですけれども、今の現状と課題を分かりやすく捉えていただきたく、この表を載せています。

ではアンケートの内容についてです。1から4までは回答者の属性把握です。1.性別、2.年代、3.居住地の学区、4.世帯にいる子どもの年代。そして下の2つの資料は、今の現状を分かりやすく把握していただくために、令和4年度の児童生徒数と令和10年、15年の児童生徒数を比較しやすく並べています。こちらを見ていただいた上で、裏からのアンケートに答えていただく予定です。

では、問5に進みます。問5は、規模の目安になる問いで、人数が多い学校、少ない学校どちらの良さに当てはまると思うか答えてください。ピンクと黄色が、人数が多い少な

いの規模の共通のイメージを持ってもらうための部分です、人数が多い学校は、学年が40人以上で、学年2クラス以上の学校。人数が少ない学校は、学年が20人未満で、学年1クラスしかない学校。最初に回答例、このように回答してくださいというのがあって、それから回答していただくようにしています。学習活動面ですけれども、項目は文部科学省が出している手引きから必要と思われる項目を書き出しました。また平成28年度に提言書を作成するにあたって、アンケートを取った訳ですけれども、そちらからも聞いた方がいい項目を書き出しています。学習面では、具体的な教科を伸ばすというよりは、学校生活を通じて伸ばしたい力、または望ましい教育環境、望ましい授業方法などについて聞いています。また、生活面についても、平成28年度に仙北市が取った、提言書を作成するためのアンケートからたくさん同じものを採用しています。手引きからも同じように採用しています。最後の運営面についてですが、これまで6つの小学校の体育館で行ってきた意見交換や、中川小に行っていた子のアンケートの中から、学校の運営面も聞いた方がいいなと思い、このように三つ項目を設けさせていただきました。

それでは、問6です。問6はこれからの子どもに、学校教育を通してどのような力を伸ばしてほしいか。学力面、行動・生活面、ふるさとキャリアの大きく三つの項目に分けています。こちらも平成28年度に仙北市が行ったアンケート項目から多く引用させてもらっています。具体的な教科の力というよりは、全般的な学力、資質能力といったものを載せています。行動生活面の項目については、よく通知表もしくは学習指導要録の中に記載されているものを記載しました。そしてふるさとキャリアのところでは、ヤマメ・サクラマスプロジェクトというものを意識しまして、郷土愛というものを載せました。そして問6で、このような力を伸ばしてほしいということから、問7です。では、どのような教育方針が大切だと思いますかという問で、三つ選んでいただきます。問6からの問7ということで、学校の在り方をどのように市民の方々は望んでいるのか。というのが現れてくるとお思いますので、学校適正配置検討委員会で話し合ういい資料になるのではないかと思います。

また①から⑧の項目は、二十歳の集いのアンケートで聞いたものと全く同じものです。次のページの間8。選ぶのはこれで最後です。これから仙北市の学校の在り方を検討していくうえで、配慮すべきことはどのようなことだと思いますか。直接検討委員会の方々に話し合う時の目安となるものとなっています。②と③は合意形成で同じ項目ですが、私の中では、今子育てをしている、若しくはこれから子育てをする方々の合意形成と、子育てが一段落している方々の合意形成。そういうような考えで分けてみました。そして⑧教育制度については、一貫教育という制度を知らない方もいるかなと思ひまして、あえてこちらに載せてみました。これまでのいろいろな市の視察に行くと、一貫校や義務教育学校という言葉がたくさん聞かれたので、項目に入れています。最後は自由記述です。ここまでが保護者と地域住民に対するアンケートの内容で、次からは小・中学生に対するアンケート内容です。表紙は、A4、1枚で説明と資料。次からはアンケートの本体。問1は性別、問2学年、問3今いる学校。問4からが属性ではなくアンケートになっております。問4の内容は、先ほど説明した大人用の問6と言葉は違いますが、全く同じです。学校でどんなことを見つきたいか。どんなことを頑張りたいか。そして裏の間5。あなたの学校についていいと思うことを教えてください。こちらも大人の間7とほぼ繋がっています。そして最後の問6ですが、この設問を設けた理由は、校舎の現状は老朽化していますよという説明は、私たちも説明会、意見交換会でしているのですけれども、実際どの部分が具体的に、どのように、どう老朽化しているのかというのは、使っている子どもたちが良く分かっていることでしょうし、どんな学校に作り変えてほしいというか、改修してほしいかと

いう生のがこれから聞けるのではないかなど。するとより一層、やはりこのままでは学校生活、住環境がまずいんだなというところが捉えやすくなるかなと思ひまして設けてみました。ひょっとしたら、大人は改修が必要だと思ひていても、子どもはいらな思ひていたり、大人はいらな思ひていても、子どもはして欲しいと思ひていたり、そういうようなギャップもでてくるのではないかなと思ひています。

最後の問7は、自由記述。自慢・知らせたい特徴的な学校活動、学校によって特色ある活動をしていると思ひます。人数がいるからこそできる活動、人数が多いからこそできる活動というものも、ここで記載していただければ見えてきて、適正配置方針に何らかの形で生かしていただけるのではないかなと思ひ、問7を設定しました。説明は以上です。

(若松学校適正配置準備室長)

アンケートの実施要領とそれから、アンケートの設問についてご説明を申し上げました。この設問を検討するにあたりましては、出来るだけ記入者の負担にならないようにということに考慮しつつ、どのような教育を望むのか、どのような学校になってほしいのか。といったところで、こうした内容としました。ご審議をよろしくお願ひいたします。

(須田教育長)

最初に適正配置検討委員会のメンバーについて、田口委員の方から何かご意見等あれば伺います。

(田口委員)

学識経験者については、素晴らしい人選だと思ひます。委員に関してはそれぞれの選考基準によって選ばれた方々だと思ひますので、それぞれのお立ち場の方の推薦等で、人選された方々ですので、個人的にはわからないんですけども、適正な人選が行われたものだと思ひます。以上です。

(須田教育長)

橋本委員お願ひします。

(橋本委員)

私も田口委員と同じです。これでいいと思ひます。

(須田教育長)

坂本委員お願ひします。

(坂本教育長職務代理者)

私も、顔見知りの方、そうでない方いらっしゃいますけれども、バランスが大変良くて適正な委員のメンバーだと思ひます。意義ありません。

(田口委員)

1点確認よろしいでしょうか。

任期は3年にまたがる訳ですよ。任期は2年間ですけれども、年度でいうと3カ年度。そうすると、職に就いた者なのか、それともその職を退いたら、別の方がさらにその都度、推薦されるのか。そこら辺をちょっと確認したいと思ひます。

(若松学校適正配置準備室長)

一度委嘱された方が、この選任区分を満たす限りは、そのままあて職ではなく、継続して2年努めていただきたいと考えています。

(田口委員)

例えば、市外の方、校長推薦等で選ばれた方は、市外の方で今後、人事異動も考えられる。そうした場合に、例えば、変わっていく場合もあるでしょうし、変わらない場合も考えられます。そういう場合はどう考えていらっしゃいますか。

(若松学校適正配置準備室長)

例えば、学校の関係者ということで、仙北市内のということで考えておりましたので、例えば市外に転勤した場合には、仙北市内の学校関係者ということでなくなってしまいますので、その場合には改めて選出していただくことになるかと思えます。

(田口委員)

そういうケースもありうるということですね。

(若松学校適正配置準備室長)

はい。ケースバイケースで進めたいと思います。

(須田教育長)

次に、二十歳の集いのアンケートをご覧になっての感想とかご意見ありましたらお願いします。坂本委員からお願いします。

(坂本教育長職務代理者)

まず、二十歳の集いのあの会場あの場所で、わやわやしている状態の中で、ほとんど100%に近い方が回答して下さったということ、それを進めてくださった担当の皆様、素晴らしい取り組みだったと思います。あらためて感謝申し上げます。結果の感想ですけれども、多様性がどの学校を卒業した人にも、多様性がトップということに驚いております。これは現代の若者の意見を集約しているというふうに感じました。ですから、こういった活躍の場といった、基礎的な学力とか古くから言われてきたことよりも、そういった新しいことへの取り組みが、これから求められているのではないかというふうに感じました。アンケートに関しては以上です。

(須田教育長)

橋本委員お願いします。

(橋本委員)

私も、多様性がトップになっているということで、今の子どもたちはそういうものを求めているのではないかと感じました。小単級の方では、切磋琢磨とかそういうものもありますけれども、2学級そういうところでも切磋琢磨、こういうものもやっぱり子どもたちが、これから社会に出ていくためにはそういうのが必要ではないかなと、もしかすれば感じているのではないかなと感じました。こちら辺のところこれから進めていくうえで大切になってくるのではないかなと感じました。以上です。

(須田教育長)

田口委員お願いします。

(田口委員)

本当にざっと見た感想ですけれども、前々から教育現場の中では、高校生の自尊感情の低さというのが、日本の高校生の特徴だということで、小中学生時代から自分自身に自信の持てる活躍の場を増やすこと、いろんな場で承認の場を増やして自己存在感、自尊感情の育成ということは大事にしなければいけないというのは、教育現場でかなり前から言われていることですが、なかなか世界の中で日本の高校生、大学生の自尊感情が高まらないというのが一つの大きな課題になっています。仙北市のアンケートの中でも、小学校中学校においても、仙北市の全国の調査の中で自尊感情は全国平均に比べると高くない、そういう現状にあります。そういう中で子どもたち自身が、二十歳の子どもたちがどう考えているのかなとそれを直接聞く項目はありませんけれども、これからの方針に、学校で大切にほしい中に、切磋琢磨とか個々の多様性だとか、活躍の場というのが比較的多く望まれているということは、何となく子どもたち自身もそういうものが必要なのかなということを感じているのかなという印象を受けました。これからは予測困難な時代。どう時代が変わっていくか分からない中で、生き抜いていかなければいけない青年、子どもたちですの

で、そういう中で何が必要なのかということ成人の皆さんもしっかり考えているのかなという印象を感じました。そういった裏打ちがこうした教育方針の形となって出てきているのかなという感じも受けました。あと、余談になりますけれども、居住地で二十歳になる青年が86人と50%以上いるというのは驚きでした。ほぼ進学や就職で地元を離れているのかなという印象を持っておりまして、実際の居住地は違うけれども、現住所をここに留めおいているというそういう方もいらっしゃるのかなと思ったりもしますが、単純に居住地が現在、仙北市であるという子どもたちが成人者の中で半数以上いるということが単純に驚きで、コロナの影響もあるのかなということも思ったりもしました。あとは出席者の記述式の自由記述の一覧ですけれども、目的は別の会であったけれども、あの忙しい中でこれだけ誠実に答えてくださった成人の方々も有り難いなど。スタッフの方々にも難儀かけましたけれども、成人者も1名を除いてほとんど回答して下さったことも含めてですね、仙北市の若い人たちはしっかりしているなどという印象も受けました。ありがとうございました。以上です。

(須田教育長)

ありがとうございました。次にアンケートについて、ご意見を伺います。坂本委員お願いします。

(坂本教育長職務代理者)

アンケートに関してですが、大人向けのアンケートですけれども、こちらは無記名での回答ですよ。郵送でということは、必要かどうかというところが気になるのですが、性別、年代です。いろんな場面で性別に関しては任意であったり、なかったりというところがありますので、問1、問2に関しては再検討していただければと思います。

それから小中学生の方ですけれども、こちら学校名、学年まで答える訳ですから、大人数のところはいいんですが、小さい学校ですと誰が答えたのか分かってしまうというような、そういう心配をする子どもさんが、ひょっとしたらいるかも知れません。ですから、どこかに「この結果はどこにも公表しません。」ということを書き添えていただければ正直な気持ちが書けるのではないかなと思いました。

内容につきましては、非常に分かりやすく、もし自分のところに抽出できたらと考えたんですが、非常に答えやすい内容になっていますし、上位5つ以内というのが選びにくいくらいに、どれも必要だと思われるような項目です。たくさん結果が返ってくることを期待したいと思います。内容については特に意見はございません。

(須田教育長)

今の坂本委員の性差についてですけれども、私があえて付けて、性差があるのかないのかを見たいなど。もしもこれで性差がないようでしたら、今後教育委員会等が出すアンケートは、全て性差を取ると。でも、もしもこのアンケートで性差が出るような内容結果が出てきたら、付けなきゃいけないかなということで、あえて今回は付けてみようかなと。今後、学校適正配置に関して、またいろんなアンケートを持たなければいけないだろうかなというところで、まずここでは性差があるかどうかを。適正配置のお二人はいらなとおっしゃいましたが、教育長が性差を見たいと。あるかどうか。という内容でありました。それから年代については、たぶん、20代30代の保護者と60代では思いがもしかして違ってるかも知れないということで、あえてこの年代を入れたところがあります。性差についてさらに、坂本委員のほうからありましたら検討しますけれども、今回はあえて性差が実際にあるかどうか見てみたくて、全くないようでしたら後は使いません。

(須田教育長)

橋本委員お願いします。

(橋本委員)

全体的に見て非常に設問が分かりやすく、答えやすいのではないかなと感じました。その中でこのアンケートの他にA4のデータが1枚付くということでしたよね。その中には、将来の子どもの視点に立ったという文言が入るんですよね。一般向けのアンケートの中にどこかに子どもの目線に立ってという、ところが入るんですよね。

(毛利学校適正配置準備室参事)

今の段階では書いてないんですけども。

(橋本委員)

いいです。それをちょっと検討していただければと感じました。それから、児童生徒向けのアンケートを配布する際ですけども、先生方にご難儀かけると思いますけれども、児童生徒数の減少とか、校舎の老朽化、そういうことについて「みんなで考えましょう」というようなことを付け加えて、配布していただければいいのかなと感じました。それから児童生徒向けの問6のアンケートですけども、先ほど毛利さんからもお話ありましたけれども、今まで私たちが気づかなかった点が、出てくるのではないかと思います。それを可能であればこの後の予算要求とか、そういうものにも反映させたらどうかと感じました。以上です。内容についてはこれでいいと思います。

(須田教育長)

次の校長会で、10月の校長会ではもう遅いので、来週の校長会の時に、「アンケートを実施するにあたって」を室長か毛利参事が、校長会に行って話をしてみてください。橋本委員からありました子どもの問6については、その他のところを少し増やすとか、上の問5のその他を少し縮めるなどしてよろしくお願いします。

(毛利学校適正配置準備室参事)

はい。

(須田教育長)

田口委員お願いします。

(田口委員)

実施要領ですけども、この実施要領も配付されるんですよね。アンケートに付けて。

(若松学校適正配置準備室長)

配付はされません。実施要領は計画ということで。

(田口委員)

そうすると、もらった人はどういう人が対象のアンケートなのかとか、どういうふう集約されて、どういうふうにかされるのか、全く分からないですよね。アンケートが何のためにされているのかということですね。それが最初に添付される、A4の1枚にある程度網羅されるのであれば、要領は必要ないのしょうけれども、どういった対象者に行っているアンケートなのか、目的は何なのか、今後の調査のスケジュールはどうなのか、どう活かされるのか。そこ辺りはアンケートをとる方々には、分からないといけないんじゃないかなと、ちょっと感じた次第です。それから、3番の⑥の市民、1,000人ということですけど、かなりの人数ですけども、抽出方式とありますが、これはどういう抽出方式なのか、無作為なのか、あるいはある程度、バランスをとった、地域バランスを考えた上での抽出なのか、そこら辺をちょっと教えていただきたい。

(若松学校適正配置準備室長)

まず一つ目のアンケートの説明文のところ、実施要領についての記載についてのお話ですけども、アンケートをお願いする表紙には目的をこのとおり、端的に載せています。ただ、ご指摘の調査対象が、どういった方々に回答してもらおうのか、ということがこれで

は説明されていないので、そこを加えることを考えたいと思います。2点目の市民の抽出方式、1,000人ですけれども、これは無作為抽出にあたると思っています。ただし、一部条件付きといいますか、地域バランスを考慮して、さらに回答をいただく年代は、高校生までを除いています。地域バランスというのは、同数ではなく、人口比率に応じて選ぶ抽出になります。以上です。

(田口委員)

分かりました。次に、保護者あるいは市民のアンケートについてですけれども、ちょっと気になったというか、問5で、非常に人数の多い学校、少ない学校のメリットについて、どのように考えているのかをアンケート調査する目的で作成されたと思いますし、非常に答えやすくなっていると思いますけれども、人数多い学校、少ない学校、これで果たして期待する良さが明確に出てくるのかなど。例えば人数が少ない学校、学年20人未満の人たち。これで人数が少ないと言えるのか。人数が多い学校は学年40人でもいいですし、でも今、現場の中では、20人程度の学級規模が理想的だということをおっしゃっている方がたくさんいましたし、仙北市の現状を考えると、人数が少ないというと、もう複式学級10人以下そういうイメージなんですね。20人が少ないと言えるのか。例えば20人もいればですね、私は全部これ丸付けられるのではないかなど。考え方にもよりますけれども。それで人数の多い学校、少ない学校のメリット、デメリットが出てくるのだろうか。ちょっとそこ疑問に思いました。充分検討した上での書き方だと思いますけれども、もっと現実的に仙北市はもう20人なんてできない。もう複式学級か、10人以下なんです一学級。そういう規模でどうなんだということを考えてほしいのであれば、もっと人数が少ない学校のイメージをもうちょっと少なくしてもいいのかなということをお印象として思いました。

それから、「どちらの良さに当てはまると思うか。」の部分。例えば、「どちらがよりメリットが大きいですか。」とかそういう記述が求められると思います。どちらの良さ。何とも言えない。答える側として「よりメリットが大きいのどちらですか」とか、例えばですね。そういう聞き方なら答えられるかも知れないけれども、良さに当てはまる、これはかなり難しいなとちょっと感じました。

それから問6については、こういったものでいいと思いますけれども、私は今盛んに叫ばれている、子どもたちも一生懸命いろんな場面で考えさせている、持続可能な社会形成、SDGsに関しての項目は、どこで答えればいいのかと感じました。その他でしょうか。でもその他では、今、盛んにいろんな方面で言われている一般社会で叫ばれている、こういう時代だからこそ、一番考えていかなければいけないことは、持続可能な社会を形成することについて考えること。これからの教育については必須だというふうに私は思います。それがメインの項目に入らないかどうか。それについてはもう一度検討していただいて、検討したうえで、それは重要な位置に、この中のものと比べる位置にはないより細かな内容だということであれば、それはそれで構いませんので、検討していただければと思います。以上です。

(毛利学校適正配置準備室参事)

SDGsについては、室で検討したんですけれども、17の目標があり、SDGsという一つの項目では括れない、そして、かなり長い目標になっているので、SDGsにあたる項目を設けたら、当然これは全てに対応しているよねと。個別化されていないという考えもありまして、今回SDGsは、あえて入れませんでした。

また問5の「良さ」という表現なんですけど、メリット・デメリットという表現が果たして、適切なのかどうかということがありまして、自分たちの学校はデメリットを抱えな

がらやっているのかという敏感な方もいるかなという部分と、20人という人数は、20から40の間がないんですね。そこもかなり悩みました。じゃあ10にするとか15にするというのもありましたけれども、ここはもう一度検討したいと思います。

(須田教育長)

来月の、9月29日で最終バージョンでは遅いんですか。遅いのであれば委員の皆様にはライン等で資料を送ることも可能ですけれども、遅くないのであれば、もう一度29日に最終バージョン出しても間に合いますか。

(若松学校適正配置準備室長)

同じものを検討委員会でもご意見をいただきたいと思っています。併せて最後練り直したものを、最終的には29日に確認ということで思っていますけれども、一旦、検討委員会の方に改めたものを、再度委員の皆様に見ていただいて、予めご意見いただいた上で、さらに修正を加えたものを29日という流れで良ければ、そのようにさせていただきたいと思っています。

(須田教育長)

この次の検討委員会が出された結果を反映したものを、さらに、今、話し合われた意見を基にしたものを、このアンケートをもう一度見てもらって、9月29日に最終バージョンにするということですね。よろしいでしょうか。では丁寧に作業進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(須田教育長)

次にその他ということですが、何かありますか。

(湯澤教育総務課長)

今後の会議の日程についてですけれども、先ほどからお話ありましたとおり、二つありますが、一つ目が9月の教育委員会定例会ですけれども、9月議会の関係で、第3木曜、第4木曜日も厳しい日程になっておりまして、ちょっと遅くなりますけれども、第5木曜ということで9月29日の午後2時から、日にちだけをずらして開催できればと思っていますので、日程の方確認いただいて、ご都合悪ければ、教えていただければと思います。9月29日ということで、日程の確認をお願いいたします。

二つ目ですけれども、総務課の方から連絡がありまして、第2回の総合教育会議ですけれども、日にちが10月4日の午後2時から田沢湖庁舎で、開催できればという話でしたので、日程の方、確認調整していただければと思います。正式には総務課の方から通知きますけれども、10月4日ということでもよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

(須田教育長)

最後、私の方から、お願ひあります。昨年度も、次年度の事業予算についてのご意見を伺いました。まだ半年も経ってないわけですが、昨年度、坂本委員からありましたLGBTQのことにつきましては、今年度生涯学習課の方で、事業を進めております。橋本委員から出されました桜木内小中学校のオンラインの授業についても行ってあります。田口委員からこられた洋式トイレ等については、なかなか財政の面で厳しかったんですけれども、今年度も1,000万規模で出しています。ということで来年度の事業予算について今から出しておかないと、間に合いませんので、何とかまだ半年経ってないんですけども今年度の状況等を踏まえまして、来年度の事業予算について、出来ること出来ないことある訳ですが、来年度に向けて何らかの形でご提案いただければ有難いと思ひます。よろしくお願ひいたします。よろしいでしょうか。次回、9月29日に発言の場を設けます。

(教育長)

10月の教育委員会では、間に合いませんよね。

(藤村教育部長)

次の9月29日にご意見をいただいて、それを10月4日の総合教育会議でも令和5年度の事業の教育委員会としての方針といいますか、要望という形で上げてもいいのではと思いました。

(須田教育長)

いつも12月、1月の段階ではもう、決まってしまうので、何とか半年も経っていませんけれども、少しでも事業化していきたいと思いますので、よろしくお願ひします。それでは、令和4年第13回教育委員会定例会を終わります。どうもありがとうございました。

(閉会宣言：午後3時25分)